

野田市教育委員会定例会会議録

- ◇日 時 令和4年8月31日（水）午後1時30分開会 午後2時24分閉会
- ◇場 所 野田市役所低層棟4階委員会室
- ◇出席委員 染谷篤教育長 伊藤稔教育委員 高橋保教育委員 飯田芳彦教育委員
- ◇欠席委員 永瀬大教育委員
- ◇説明職員 山下敏也教育次長（兼）生涯学習部長 戸塚進生涯学習部次長（兼）教育総務課長 安藤剛行生涯学習課長 善方浩子青少年課長（兼）青少年センター所長 葛西真理子興風図書館長 土屋孝之学校教育部長 中居章学校教育部次長（兼）学校教育課長 間々田英示指導課長

◇書 記 小関秀章教育総務課長補佐

◇付議事件

- (1) 野田市教育委員会職員の勤務時間、休日、休暇等に関する規則の一部を改正する規則の制定について

◇教育長の報告事項

- ・生涯学習課
 - (1) 令和4年度第1回野田市文化財保護審議会会議の概要報告について
- ・学校教育課
 - (1) 新型コロナウイルス感染症の対応について
 - (2) 野田市学校給食運営委員会会議の概要報告について
- ・指導課
 - (1) 児童生徒の諸活動について
 - (2) 野田市イングリッシュ道場について
 - (3) 土曜授業検討委員会について
 - (4) 全国学力・学習状況調査について

◎染谷教育長

ただいまから、令和4年8月教育委員会定例会を開会いたします。

本日、傍聴希望者が1人いらしておりますので、これを許可いたしましたことを、御報告いたします。

会議に先立ち、傍聴の皆様申し上げます。会議における議論につきまして、批評を加えたり、賛否を表明したり、私語等なさないよう御協力をお願いします。

本日は、永瀬委員が欠席しておりますので御報告します。

なお、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第3項の規定により、会議は成立しております。

それでは、会議を始めます。

本日の会議録署名委員を高橋委員をお願いします。

(高橋委員了承)

◎染谷教育長

会議録承認の件に入ります。令和4年7月定例会の会議録について、事前に資料を配布しているところですが、御意見等はございませんでしょうか。

◎全委員

(異議なし)

◎染谷教育長

御異議なしと認め会議録につきましては承認いたします。

それでは、会議次第に従い議事を進めます。

本日の議題ですが、先に通知してあります議案1件、報告事項7件となっております。

それでは、会議次第により、議案第1号を議題とします。

(書記議案朗読)

◎染谷教育長

事務局から説明をお願いします。

教育総務課長。

◎戸塚教育総務課長

議案第1号、野田市教育委員会職員の勤務時間、休日、休暇等に関する規則の一部を改正する規則の制定について御説明いたします。

資料は、1ページから4ページでございます。

本規則の改正に至った経過ですが、人事院が行った「公務員人事管理に関する報告」及び「国家公務員の育児休業等に関する法律の改正についての意見の申出」において、国家公務員に係る「妊娠・出産・育児等と仕事の両立支援のために講じる措置」が示され、人事院規則等の改正が行われました。

地方公務員の勤務条件については、国家公務員の措置との権衡を踏まえることが求められており、本市においても措置を講ずるため、所要の改正を行おうとするものでございます。

本案の改正内容につきましては、資料3ページの新旧対照表を御覧ください。

特別休暇の基準でございます。第10号に規定する職員の妻が出産する場合において、育児参加のための休暇を取得できる期間を、現行の「出産の日後8週間を経過する日まで」から「出産の日以後1年を経過する日まで」に拡大しようとするものです。

なお、本規則の施行期日は、令和4年10月1日からとなります。

よろしく御審議の上、御決定賜りますようお願い申し上げます。

以上でございます。

◎染谷教育長

ただいま事務局から説明がありました。御質問、御意見等がありましたらお願いします。
飯田委員。

◎飯田委員

現行の特別休暇は、どの程度の利用があるのでしょうか。

◎染谷教育長

教育総務課長。

◎戸塚教育総務課長

人事課に確認をさせていただきまして、教育委員会に関しては、現在これを利用している職員はいないということで確認が取られております。

ただ、市の職員についての把握はございません。

◎染谷教育長

ほかに質問等はございませんか。

ないようですので、議案第1号についてお諮りします。

議案第1号について、原案のとおり可決することに、御異議ありませんか。

(異議なし)

◎染谷教育長

御異議なしと認めます。

よって、議案第1号は、原案のとおり可決されました。

次に、教育長の報告事項に入ります。

なお、報告事項に対する御質問等につきましては、説明終了後に、一括してお受けしたいと思っております。

それでは、生涯学習課からお願いします。

生涯学習課長。

◎安藤生涯学習課長

令和4年度第1回野田市文化財保護審議会会議の概要について御報告いたします。

資料は1ページを御覧ください。

会議は、7月29日に市民会館において、委員7人中5人の出席により開催いたしました。会議の内容といたしましては、始めに上花輪の公益財団法人高梨本家「上花輪歴史館」にて、災害関連文化財の実査を行ない、実査終了後に、会場を市民会館に移しまして、令和4年度事業の進捗状況について事務局から説明し、御了承いただきました。

また、今年度から取り組みを始めました「野田市文化財保存活用地域計画」について、事務局から概要説明を行ない、今後の計画策定に際して、審議会委員の皆様にご協力いただくことを御了承いただきました。

次に、災害関連文化財について、当日の実査の結果をもって、今回の指定候補対象について御審議をいただいた結果、最終的に4件の文化財について、市指定文化財候補とすることを決定いただきました。この後、所有者との調整や評価書の作成などの事務手続きが整い次第、教育委員会に議案提出させていただくことといたします。

以上でございます。

◎染谷教育長

次に、学校教育課からお願いします。

学校教育課長。

◎中居学校教育課長

1点目、新型コロナウイルス感染症の対応について、御報告させていただきます。資料はございません。

本日で夏季休業が終了し、明日から幼稚園、小中学校が再開し、子供たちの元気な姿が戻って来ます。オミクロン株BA.5は想像以上に感染力が高く、全国的にも感染者が急拡大するのと同様に、市内児童生徒の感染状況も急拡大している状況にありました。8月上旬を境に野田市の感染状況も減少傾向に向かっているのに伴い、園児、児童生徒の感染者数も減少傾向になっています。7月の第5週が最も1日の平均値が多い週で、1日平均が32人、先週の1週間平均が11人となっていますので、数字からでも減少していることがわかります。第7波の陽性者数ですが、8月30日現在の数字となりますが、小中学校・幼稚園で合計870名となっています。第6波での陽性者の合計が約1,200名ですので、既にその数字に追いつこうという勢いとなっています。

9月以降の教育活動については、感染防止対策を講じた上、通常の活動に近づくように取り組んでいきます。ただし、合唱や管楽器演奏、調理実習などの感染リスクの高い活動については、換気、身体距離の確保や手洗いなどの更に感染対策を十分に行った上で実施していきます。

修学旅行、林間学校等、宿泊を伴う行事及び市外の校外学習については、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の発令の予定がありませんので、現在のところ、感染対策を講じて計画どおりに実施する予定ですが、9月上旬に実施予定のいくつかの学校については、既に延期をしている学校もあります。

9月17日、土曜日には、多くの中学校が体育祭を予定しています。学校の規模や校庭の練習時間等を考慮し、時間や種目、参観者の受入れ等を工夫し、感染防止策を講じて行う予定となっております。

9月は残暑が厳しい日もあり、熱中症予防対策も心掛けなければならない時期となります。熱中症は命に関わる重大な問題となることから、児童生徒の判断に任せず、児童生徒に対して熱中症の危険性を指導すること、体育の授業、運動部活動、登下校時においては、特に熱中症のリスクが高いことから、その対策を優先し、マスクを外すよう指導することを改めて学校に周知し、熱中症への対応も優先して取り組んでいます。

児童生徒のワクチン接種について報告いたします。8月22日現在の小中学校在籍年齢にあたる、4歳から14歳の接種状況となりますが、1回目接種終了者は9,018名、先月同時期より2,463名増、2回目接種終了者は8,765名、先月同時期より2,357名増、3回目接種終了者は3,469名、先月同時期より1,675名増となっています。全児童生徒数が約11,000名ですので、接種率は1回目、2回目がおおよそ80%、3回目接種がおおよそ30%と推測することができます。7月以降、接種をする割合が大幅に増えてきており、接種率が高くなることで、学校での集団感染防止につながると考えています。

最後になりますが、現在新型コロナウイルス感染は高止まりの状況となっておりますが、今後も、文部科学省や県が発出するマニュアルやガイドラインを参考に、安全な教育活動が展開できるよう慎重に取り組んでまいります。また、家庭と協力し、学校での新型コロナウイルス感染防止に全力を尽くすよう学校を指導してまいります。

次に2点目、野田市学校給食運営委員会について御報告申し上げます。資料は2ページとなります。

令和4年7月30日、土曜日に開催しました第1回学校給食運営委員会の議事について、御報告申し上げます。

協議事項（１）の令和３年度の賄材料費の執行状況等について説明し、了解を得ました。（２）の令和４年度の給食食材費の物価高騰対策について説明し、了解を得ました。内容としましては、令和４年度６月補正で総額４,３５２万円の賄材料費を予算化したことと、来年度以降、栄養価の確保のため、現行の給食食材費の見直しが必要となるか検討を要することなどを説明しました。（３）の給食費の未納状況及び未納に対する対策について説明し、了解を得ました。内容としましては、今年度は５万円以上の滞納者及び居住確認ができない９世帯について、法律事務所へ委託することなどを説明しました。（４）の野田市の学校給食施設設備方針策定に向けて、施設の現状及び整備方法別のコスト比較等について報告をしました。

報告事項としましては、（１）の地産地消の実績と今後の見通しについて、（２）の令和４年度からの学校給食における食物アレルギー対応について、報告いたしました。

その他としまして、運営委員から「地産地消や野田のブランド米の取り組みは素晴らしい。コウノトリがいるということは、自然が豊かである象徴である。費用面もあるかと思うが、地産地消で物流コストを下げ、子供たちに安全な野菜や食べ物を多く提供していただくことを望んでいる。」という意見をいただきました。学校給食施設の整備に関しては、特に質問や御意見はございませんでした。

以上で学校教育課からの報告を終わりにいたします。

◎染谷教育長

次に、指導課からお願いします。

指導課長。

◎間々田指導課長

指導課所管事業につきまして、４点御報告申し上げます。

まず、１点目、資料３ページから４ページ、児童生徒の諸活動について御報告申し上げます。

本日は、県大会で上位入賞等し、小中体連主催の関東大会、全国大会に出場した生徒を御報告いたします。

まずは、水泳競技の部です。岩名中学校３年生、横田陸斗君が、県大会において、男子２００ｍバタフライで優勝し、８月１７日から２０日まで開催された第６２回全国中学校水泳競技大会に出場しました。

また、南部中学校３年生、岡安菜々心さんが、県大会において、女子２００ｍ背泳ぎで優勝し、同じく全国大会に出場しました。第一中学校３年生、宮田一志君は、県大会において、男子１００ｍ平泳ぎで７位、男子２００ｍ平泳ぎで６位に入賞し、関東大会に出場しました。

続きまして、陸上競技の部です。木間ヶ瀬中学校２年生、川口ムサ慧君が、県大会において、男子８００ｍで優勝し、８月９日及び１０日に開催された第５０回関東中学校陸上競技大会に出場し、共通男子８００ｍで６位に入賞、さらに８月１８日から２１日まで開催された第４９回全日本中学校陸上競技選手権大会に出場しました。また、岩名中学校１年生、山影英汰君が、県大会において、１年走幅跳で６位に入賞、通信大会で３位の結果を残していたことから、同じく関東大会に出場しました。

続きまして、卓球競技の部です。第二中学校２年生、田嶋昂誠君が、県大会において、男子シングルス９位、代表決定戦に勝利し、８月９日に開催された第５０回関東中学校卓球大会に出場しました。

続きまして、２点目、資料５ページ、野田市イングリッシュ道場について御報告いたします。

野田市イングリッシュ道場は、中学生に英語を使って自己表現しようとする意欲を育てるとともに、自ら英語学習に取り組もうとする態度を養うことを目的として開催し、今年度で7回目を迎えました。

野田市中央公民館を会場に、市内の中学2年生と3年生の受講希望者を対象とし、準備を進めてまいりました。昨年度と同様、7月に実施予定だった中学3年生は開催できませんでしたが、コロナウイルス感染拡大の影響を受け、8月に実施を予定していた中学2年生につきましては中止となってしまいました。実施できた3年生の内容といたしましては、生徒を個人、又は2人から3人のグループに分けて、それぞれ外国語指導助手ALTのサポートの下、ALTが作成したオリジナルプランによるコミュニケーション活動を行いました。最後に、アメリカカリフォルニア州在住のALTの親戚と、オンラインで相手への質問や日本文化の紹介等、英語での交流を行いました。

成果といたしましては、終始和やかな雰囲気の中、ALTとともに、どの生徒も楽しく英語学習に取り組めました。終了後に生徒に行ったアンケートには、2日間のALTとのコミュニケーション活動を通して、英語を使って外国の方々と話をする楽しさや、今後の英語学習に向けての意欲が書かれていました。

課題といたしましては、ALTからの質問に答えることはできても、自分からALTに話しかけることには躊躇してしまうという点が挙げられます。

また、その場ですぐ自分の意見や気持ちを発表することに対しては苦手な様子が見られました。生徒が自分から英語を発することができるような場面設定や、即興性のあるコミュニケーション活動の指導の工夫が一層必要であると感じられます。

3年生には修了証、2年生にはALTからのメッセージカードを送付することを予定しています。

続きまして、3点目、資料6ページから9ページ、土曜授業検討委員会について申し上げます。

これまで9年間続けてきた土曜授業につきましては、成果と課題について土曜授業検証委員会が毎年まとめと検証を行ってまいりました。

しなしながら、その検証はあくまで学力向上や学習への意欲などを主とした検証であり、土曜授業のあり方そのものについての検討は行われておりませんでした。

そこで、今年度、新たに土曜授業のあり方について検討を行う組織、土曜授業検討委員会を立ち上げ、児童生徒、保護者、教職員への意識調査などから、土曜授業実施の意義やこれまでの成果と課題、今後の方向性などについて議論を深め、土曜授業実施から10年を迎える令和5年度中に今後の方向性について、ある程度の結論を導き出したいと考えております。

メンバーにつきましては、今年度の土曜授業検証委員会の委員を基本に、学校教育部長、指導課長、小中各1名の校長会代表2名、小中各1名の教頭会代表2名、小中各1名の教員代表2名、PTA代表2名に加え、新たに、教育委員の代表1名、PTAの各ブロック地区代表小学校・中学校1名ずつの8名を加え、組織したいと考えております。

今後の予定といたしましては、9月下旬または10月上旬に第1回の検討委員会を開催いたします。その後、11月をめどに第2回を開催し、12月に土曜授業に関する意識調査を実施いたします。年が明けました後、2回程度の検討委員会を開催した上で、来年7月に再度土曜授業に関する意識調査を実施し、検討委員会を経て今後の方向性が決定できたらと考えております。

最後に、資料10ページから15ページ、全国学力・学習状況調査の結果について申し上げます。

ます。

今年度実施いたしました全国学力・学習状況調査の結果概要ですが、小中学校、国語、算数・数学ともに、全国平均正答率を下回っております。

この調査から、子供たちのできていることは何か、苦手としていることは何かを明らかにし、できていることはさらに伸ばし、課題は少しでも解決できるよう、指導方法を振り返り、改善しなければならないと考えております。

各学校では、詳細な分析を行い、子供たちが主体的に学び、書いたり、読んだり、話したりする表現活動を通じて、理解を深めていく手立てを考え、授業改善、展開の工夫に取り組んでいただいています。

野田市の課題ですが、国語、算数・数学ともに記述式問題が苦手な傾向にあります。記述式問題に対する苦手さは全国の傾向でもありますが、本市では特に、国語の文章を読み取って考えたことを記述する問題、算数・数学の数と計算の求め方と答えを記述する問題、理科の実験や観察から自分なりの考えを持ちまとめを記述するといった問題が苦手であることが見て取れます。

児童生徒質問紙の「今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。」という質問では、「書く問題は全く解答しなかった」という野田市の小学6年生が2.6%、中学3年生が3.1%おり、それぞれ全国平均よりも0.8%、0.7%多い状況でした。さらに、「書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあった。」という野田市の小学6年生は20.4%、中学3年生が23.5%おり、それぞれ全国平均よりも3.0%、6.1%多い状況でした。このことが記述式の問題の無回答率にも表れており、野田市の児童生徒は全国に比べて記述式の問題に対しての抵抗感が強く、根気強く対応しようとする意欲が弱いことがわかります。

また、「学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。」という質問では、否定的な回答が、小学6年生で3.2%、中学3年生で9.4%、全国よりも多く、普段の授業で自分の言葉でまとめを書いていない実態がうかがえ、このことが記述式の問題への抵抗感にも影響しているものと考えられます。

そのため、小学校から段階的、継続的に、授業の最後に振り返りとして、何を学んだのかを自分の言葉で書く活動や、答えを出すだけでなく、自分の考えを文章で書く活動を授業に積極的に取り入れるなど、引き続き指導内容の工夫改善を進めてまいりたいと思います。

さて、今回の状況調査で、およそ9割の児童生徒が「人が困っているときは、進んで助けている。」と答えており、小中学生とも全国平均を1%以上上回っております。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」と回答した児童生徒も小中学生とも95%以上おり、全国平均とほぼ同じ数値となっております。新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、様々な制約が課せられている学校生活ではありますが、子供たちは周りの人たちのことを考えて生活をしようと考えている表れであり、温かい心が育まれているものと考えます。

今後さらに、子供たちの持つ無限で多様な可能性を広げていけるような教育の機会を整え、自分の良さを発見しつつ、ほかの人と共に成長していけるような教育活動を展開してまいります。

以上、御報告申し上げます。

◎染谷教育長

ほかに報告事項がありましたらお願いします。

ないようですので、それでは、ただいまの報告事項につきまして、御質問、御意見等がありましたらお願いします。

高橋委員。

◎高橋委員

土曜授業検討委員会の立ち上げについて、2点お伺いしたいと思います。

まず1点は、このあり方の検討を行うのは、10年目の節目だからとも捉えました。ただ、節目だけで、このあり方の検討が行われるわけではないと思いますので、検討に入る背景や理由を色々あると思いますので、簡単に主な点だけ教えていただきたい。

2点目は、計画によりますと今年度も来年度も、意識調査アンケートを実施する予定があります。この内容は、どういう違いが出るとお考えになっているのか。大まかに1回目と2回目の違いを教えてくださいませんか。

以上です。

◎染谷教育長

指導課長。

◎間々田指導課長

委員からございました御質問、土曜授業検討委員会につきまして、2点お答えいたします。

まず、あり方の検討につきましては、10年目の節目ということで今回検討委員会を立ち上げるわけですが、実際この9年ほど、土曜授業を行って参りました中で、様々な成果と課題が見られるようになってきております。その成果と課題を一度、我々教育委員会、指導課以外の学校関係者、保護者、それから教育委員の皆様方にも、御意見を頂戴するという目的を込めて、検討委員会をこの10年の節目というところで、立ち上げさせていただけたらと考えております。

それから2点目、アンケートのことでございますが、アンケートの内容につきましては、詳細につきましては、今後開催をいたします検証委員会で詰めていきたいと考えております。ただ、これまでも土曜授業に関するアンケートは行ってきておりまして、その内容よりも、さらに突っ込んだものを聞いていこうと考えております。とりあえず、今年度の実施の内容につきましては、現在のところ正直に、子供たち或いは保護者教職員がどう思っているのかを把握し、来年度の2回目については今年度の土曜授業が終了し、更に来年度何回か、土曜授業を実施した上で、また、世の中のこのコロナの状況等々を踏まえて、先生方、保護者の皆さん、子供たちがどのように変化、変容するかということも踏まえて、アンケートを取らせていただきたいと考えております。

以上でございます。

◎染谷教育長

高橋委員。

◎高橋委員

ありがとうございました。検討委員会ですので色々な意見が出るかと思いますが、その出た意見というのは、保護者の皆さん、或いは関係者に公表されていくのでしょうか。

◎染谷教育長

指導課長。

◎間々田指導課長

議事録等を作成いたしまして、私どもとしても検討の結果等を広くお示ししていきたい

と考えております。

以上でございます。

◎染谷教育長

高橋委員。

◎高橋委員

ありがとうございました。

◎染谷教育長

ほかにございましたらお願いします。

飯田委員。

◎飯田委員

夏休み期間中に、NICTを使った児童生徒さんへの指導があったのか教えてください。それから、先ほど、いじめに関して、いじめはいけないという意識が非常に高まっているというお話を伺いました。いじめという言葉ではいけないとわかっていると思います。実際にこういう行為はいじめですよということを、我々は会社等でも実際に具体的な例があって、学習していくわけです。児童生徒さんにも一つの具体例からこれはいじめですよということを、色々な機会を見つけて、指導していただければありがたいなど、これは要望です。

それから、夏休み期間中に、虐待やいじめ等々で委員会に相談が上がったことがあるかどうか、上がったようであればその対応の進捗状況について教えてください。

以上です。

◎染谷教育長

指導課長。

◎間々田指導課長

まず、御質問は、夏休み中のChromebookの活用等についてかと思えます。教育委員会として、どの学校がどんな宿題を出しているかという詳細については、把握をしていない状況ではございますが、聞くところによりますと、学校で必要に応じてChromebookを持ち帰らせまして、特に子どもが今力を入れて学校で取り組んでいただいているeライブラリという学習教材をぜひ取り組んで欲しいと、再三申し上げて参りましたので、これを宿題として活用してくれている学校があると、聞いているところでございます。

それから質問の2点目、この夏休み中、虐待やいじめの報告は上がっているかという御質問でございますが、いじめについては、夏休み中ということもございまして、とりわけはございませんけれども、虐待につきましては、子ども家庭総合支援課及び指導課にある子ども家庭総合支援課の分室を通しまして、何件か報告が上がっております。そちらにつきましては、基本的には、子ども家庭総合支援課と分室が中心になりまして、学校と連携を取りながら、対応をしているところでございます。

御要望でございました、具体的にこういうことがいじめになるということについて、機会を捉えて御指導いただきたいということにつきましては、委員の御指摘のとおり、何がいじめなのかということが、子供たちには今ひとつ理解できていないだろうと、私どもも捉えております。法整備が整ったこともありまして、本来、法律のいじめの定義ののっとなって我々教員も指導していかなければならないのですが、まずは、教員のいじめに対する意識も変えていかなければならないということで、野田市教育委員会のアドバイザーを弁護士にお願いしております。それから、スクールロイヤー等もブロックごとをお願いをし

ておりますが、こういった方々に教職員の研修に出向いていただきまして、教職員へ研修を進めていたり、子供たちにもスクールロイヤーが自らいじめの研修を行ったり、或いは中学生ですと、昨年まではストップイット、今年度からスタンドバイに変わったのですが、相談を匿名でインターネットでできるような体制を整えております。このスタンドバイという会社の方から実際に中学校1年生を対象に、学校に出向いていただいて、いじめの何がいけないのか、こういうことは駄目だと考えるような授業を実施しております。こういった機会も含めまして、様々な場面で今後も指導を続けて参りたいと思います。

以上でございます。

◎染谷教育長

飯田委員。

◎飯田委員

ありがとうございました。

ぜひ、そういった具体例も上げて、さらなる浸透を、95%が100%になるように、御指導をお願いできればと思います。

あともう1点、お答えいただいたChromebookの、必要に応じての活用というお話がありました。データが取れるようでしたら、どの程度活用なさったのか、教えていただければ助かります。

以上です。

◎染谷教育長

指導課は次回回答をお願いします。

ほかにごございましたらお願いします。

伊藤委員。

◎伊藤委員

先ほどの、全国学力・学習状況調査のデータを見させていただきました。県或いは全国平均と比べると1問或いは0.5問くらい低く、また標準偏差のばらつきは、そんなに、県或いは全国平均と変わらないのですが、このデータからは、そのばらつきがちょっと下の方にぶれていて、基礎学力的な、簡単な間違いが、平均よりも多いように見えるのですが、これは4月の試験なので、去年の成果がここには反映されているとは思いませんが、去年から子供たちがデジタル教材を家でも学校でも使えるようになり、いつでもどこでも学べるような環境が整いつつある中で、去年から子供たちが手にしているタブレット等をうまく活用すると、なかなか平均に届かない、基礎的な問題がうまく解けなかったというところが、改善できるのではないかという印象を受けたのですが、指導課としての具体的な方策は現在あるのでしょうか。もしあったら教えてください。

◎染谷教育長

指導課長。

◎間々田指導課長

委員の御指摘のとおり、なかなか厳しい結果ではございますけれども、実は問題ごとに分析をしてみますと、例えば漢字の正答率は、全国平均よりも上だったり、問題によってばらつきがある状況でございます。Chromebookをせっかく入れさせていただいていますので、ドリル的な意味合いで言えば、eライブラリというものをうまく活用しながら、反復練習をしていきたい。これは1問1答式に近いのですが、質問に答えて、それがすぐに○か×が出て、×だと似たような問題を繰り返すことができるというような、大変便利な問題になっておりますので、短く答えるような知識に関するものはそういった

もので、引き続き、改善を図っていきたいと考えております。

また、先ほど申し上げた中で記述式、自分の考えを文章にする力というものが非常に弱いというか、最初から諦めて書かない傾向もございますので、なかなかすぐにはできるものではないのですが、自分の考えを文章化するというのは、ノートに鉛筆で書くだけではなく、Chromebookに打ち込むことも可能だと思います。これまではうまく書けなかった、消しゴムで消すのが大変だった、或いは見づらいなどと言っていた子が、画面上ですと、簡単に修正が加えられたり、或いは文字を大きくしたりすることができますので、そういう作業等を通しつつ、Jamboardというものが入っていて、これで友達同士が自分の考えを共有することができます。その共有する中で、自分の考えに自信を持って、アウトプットできるような機会をたくさん設けていくことが、結果的には、この記述式の低い回答率にも、改善を加えられるかなと考えております。

以上でございます。

◎染谷教育長

よろしいでしょうか。

伊藤委員。

◎伊藤委員

ありがとうございました。

おっしゃる通り、基礎的な覚えるものはドリルが威力を発揮するだろうと、それから何も答えを出してこない子供は、それがいじめにつながったら困るわけですが、Chromebook等で、自分が思ったことの相互のやり取りやクリエイティブな議論などに上手く使えと、このテストで見えてくる課題が克服できる希望もあるのかなと思いました。

ありがとうございました。

◎染谷教育長

ほかにございましたらお願いします。

高橋委員。

◎高橋委員

学習状況調査なのですが、特に中学校の数学を見た時に、分布直線を見て思ったのは、私見なのですが、学力格差が広がっている、おそらく授業について行けない子供も増えているという見方を私はしました。

基礎的なことについてはドリルで繰り返し練習していると思いますが、子供の頭の中に、数学が苦手という意識が先走りしている可能性はないのでしょうか。2020年、学校が3月から4月、5月ぐらいまで休校になりました。そのときに、この中学3年生の子供たちは中学1年生だった。野田市の子供だけではないはずなのですが、そういう影響が出ているのではないかという気がします。指導課長がおっしゃいましたように、今、各校で分析をして、そして、取り組もうとしているということですので、その結果を待ちたいと思うのですが、中学3年生にしても小学校6年生にしても、問題の後半、例えば14問あったら、13問目14問目あたりになると、俄然回答率が悪い。そういう傾向はないのでしょうか。要するに、時間がない。だからその問題を当たっていくことができない。本当は時間をかければできるかもしれないけれども時間で切られてしまうがゆえに回答できない。そういう傾向はないのでしょうか。そういうことになると、試験慣れをしてない。普通のワークテストはやっていると思いますが、問題が多い中で、どうクリアしていくかということができていない。そういった可能性もないとも言えないとも思っています。

ですから、後半の問題がどの程度回答されているかも調べてみる必要があり、そこに一

つの対策の立て方が出てくる可能性があるのではないかとことを申し上げたい。

それから、これは教えていただきたいのですが、新聞で読んだのですが、県の教育委員会では、問題集を作って配布すると書いてありました。そういう問題集はあるのでしょうか。或いは今年に限って作られて、それが各教育委員会に回ってくるのでしょうか。その辺がわかれば教えていただきたいと思います。県の問題集があるということであれば、次に、どの時間を使ってやるかという問題が出てくるとと思いますが、一つの改善策になる可能性はあると思い、質問をさせていただきました。問題集についてだけ教えていただけますか。

以上です。

◎染谷教育長

指導課長。

◎間々田指導課長

御指摘ありがとうございます。

先ほどの、問題の後半になるとどうなるかというデータが手元にごさいますて、最後の問題もまた記述式なのですが、委員の御指摘のとおり全国平均と比べると、無回答の率が15%ほど上がります。その前の記述式の回答を見てみますと、無回答が全国平均よりも15%ほど上がる問題はないので、やはり最後の方で時間切れになっている可能性は十分あると考えられます。また生徒の質問肢の中に、数学の回答時間は十分でしたかという質問があり、大体30%の生徒がやや足りないか足りないと答えておりますが、全国平均と比べてもこの辺りは5%程度の差になっております。どちらにせよ、最後の問題までじっくり取り組むことが十分にはできていない生徒が幾らかいるという点につきましては、今後の課題と考えております。

それから、御質問にございました県の問題集の件でございますが、問題集という形では把握できておりませんが、県でも全国学力テストを意識して、全国学力テストのような問題を独自に作って、何校かにテストをやってもらおうということは、昨年度から取り組み始めたと聞いております。今年度についても実施をする予定でございます。問題集の存在につきましては今後県に確認をしながら、また、もしあるのであれば、どのように授業で活用できるか検討して参りたいと思います。

以上でございます。

◎染谷教育長

よろしいでしょうか。

高橋委員。

◎高橋委員

ありがとうございました。

◎染谷教育長

ほかにごさいましたらお願いします。

ないようですので、以上で、教育長の報告事項を終了します。

本日の議題は、すべて終了しました。

以上をもちまして、本日の教育委員会定例会を閉会します。

以上会議のてん末を記載し、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

教育長

委 員